

付着生物ラーバ情報

ミネフジツボのラーバが出現

1 ラーバ等の出現状況

令和5年1月19日から1月23日にかけて陸奥湾内4地点において付着生物ラーバ等の調査を行いました。調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは見られませんでした (表1、図2)。

(2) ミネフジツボ

ラーバは久栗坂沖で令和5年1月19日、23日ともに0.6個体/m³、野辺地沖で1月23日に0.8個体/m³、川内沖で1月19日に16.4個体/m³見られました (表1、図3)。

(2) マボヤ

ラーバは奥内沖で令和5年1月19日に3.3個体/m³、久栗坂沖で1月19日に2.8個体/m³見られました (表1、図4)。

卵は奥内沖で令和5年1月19日に5.0個/m³見られました (表1)。

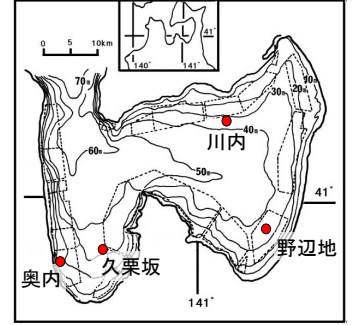


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ガラボヤ	キヌマシガイ	ムラサキガイ	サンカクフジツボ	ミネフジツボ	マボヤ	
								ラーバ	卵
奥内沖	R5.1.19	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	3.3	5.0
久栗坂沖	R5.1.19	0.0	0.0	0.0	10.6	0.0	0.6	2.8	0.0
	R5.1.23	0.0	0.0	1.7	5.6	0.0	0.6	0.0	0.0
野辺地沖	R5.1.23	0.0	0.0	1.6	3.9	0.0	0.8	0.0	0.0
川内沖	R5.1.19	0.0	0.0	3.1	14.1	0.0	16.4	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは例年10月から12月にラーバが出現し、日平均水温が8℃未満になると出現しなくなります。今季は10月から1月までほとんど出現していません (図2)。今季はラーバ累積出現数が少ないことから、現時点では今春の半成貝出荷時のネットへの付着量は少ないことが予測されますが、**東湾では出現数が少なくても春の付着量が多くなる年がある**ので注意が必要です。

ミネフジツボの付着直前のラーバが出現しており (図3)、今後付着が進むと思われます。

3 マボヤ天然採苗情報

マボヤのラーバ及び卵は西湾では出現していますが、マボヤのラーバは水温が9℃を下回ると活性が低下するため、マボヤの付着は終了したものとされます。

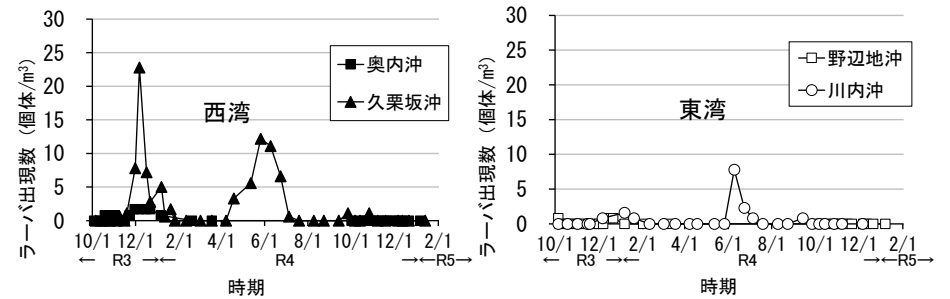


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和5年1月)
・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

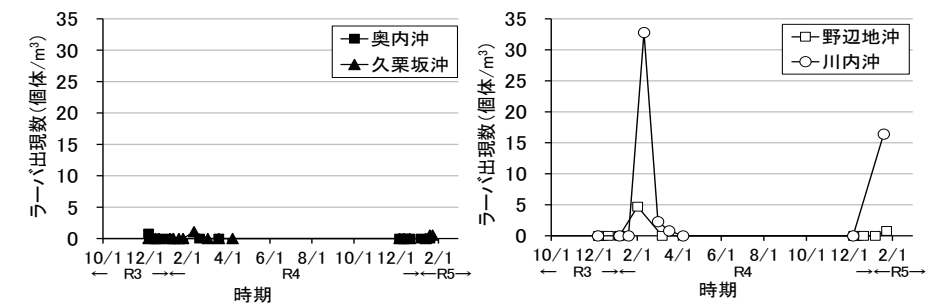


図3 ミネフジツボラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和5年1月)
・令和2年の観察開始から現在までの最大値：西湾 27個体/m³、東湾 33個体/m³

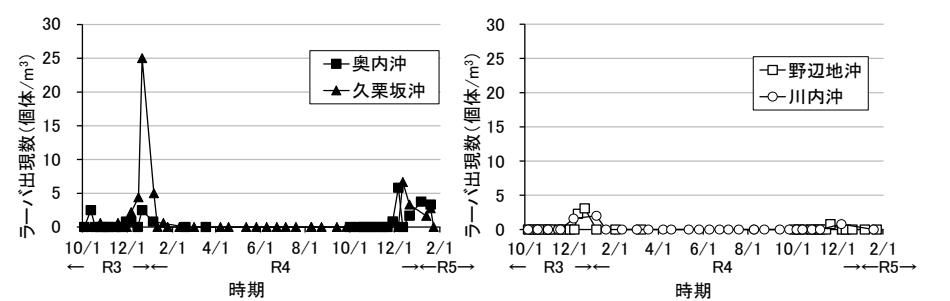


図4 マボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和5年1月)
・平成28年の観察開始から現在までの最大値：西湾 27個体/m³、東湾 5個体/m³

